

1.5 その他の臨海部

活性化コンセプト：「物流・産業機能と共存した観光産業や質の高い水と緑の環境空間の形成」

【課題1】 産業観光への活用

大阪府下では、関西地域の産業・企業に関して学び、体験し、交流できるような産業関連施設（工場、工房、企業博物館、研究所等）が開設されています。

堺臨海部においても、関西電力によるエネルギーに関する展示、エコタウンや堺臨海エコファクトリーズ協議会によるリサイクル施設の見学、大阪ガスによる展示館や科学実験等により交流の場が創出されています。



図 堺港発電所 PR 館



図 エコタウンの概要

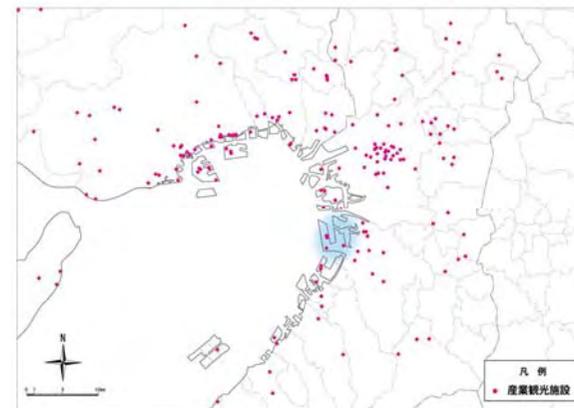


図 工場などの観光資源

大阪湾周辺における産業観光施設の分布状況を見ると、大阪市、神戸市等の都心を中心として、多数の産業観光施設が分布している。**堺臨海部においても産業観光施設の集積**がみられるため、ポテンシャルは高いと考えられ、**他産業との連携も可能**であると考えられます。

また、近年日本国内において、コンビニートや工場の夜間照明や煙突・配管・タンク群の、重厚な「構造美」を愛する**工場観賞（工場鑑賞）を趣味とする人々が増えており**、従来、決してきれいとは言えない外観であるとされてきた工場に美を見出す動きがインターネット等を通じて拡大しており、**臨海部の魅力の一つ**となっています。また、旧港につながる**環濠でのクルーズが運航されており、賑わいをみせています**。

以上より、当地区においては「**産業観光への活用**」が必要です。



出典：近畿経済産業局HP 関西の見学可能な産業施設ガイドより抽出

図 大阪湾周辺の産業観光施設



図 堺泉北港の臨海工業地帯

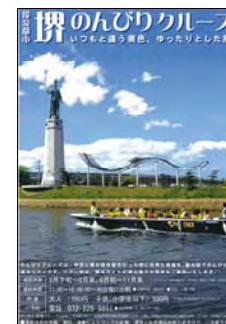


図 堺のんびりクルーズ

【課題2】 水質環境の改善

堺泉北港の窪地箇所数は8箇所(堺市地先海域)であり、容量は合計して約580万m³(大阪ドーム約5個分)に及びます。これらの窪地では、**海域低層の貧酸素状況が生じており、水質が低下している**可能性があり、その結果、**生物の生息環境が損なわれている**と推察されます。

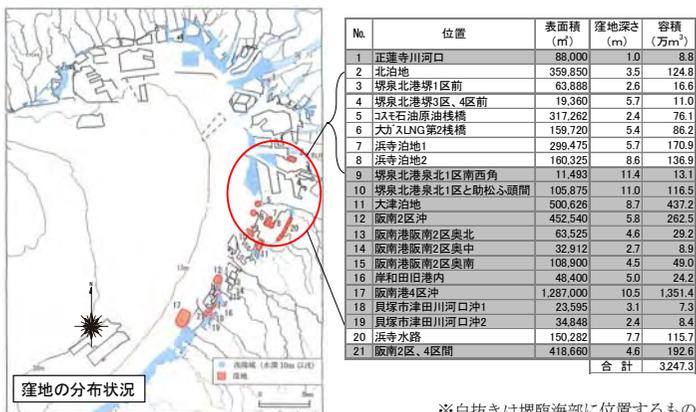
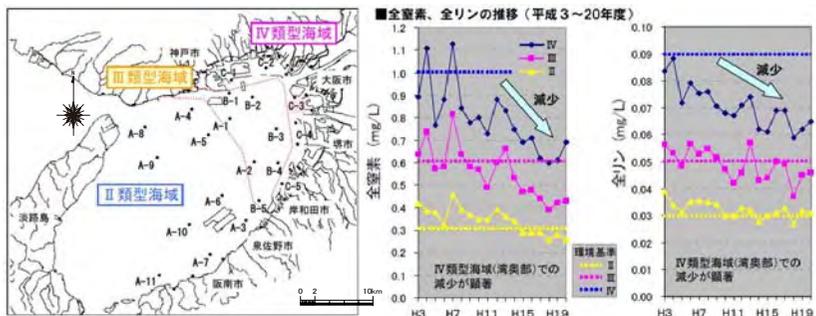


図 堺泉北港における窪地の分布状況

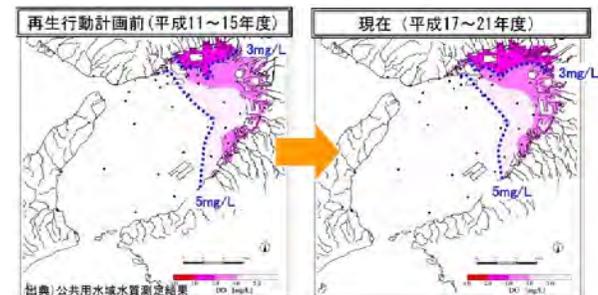
※白抜きは堺臨海部に位置するもの

大阪湾再生行動計画においては目標水質レベルとして、底層D0を5mg/L以上、表層CODを5mg/L以下とすることを定めています。大阪湾における水質評価指標の状況は、再生行動計画前から現在でも概ね同様に分布しており、**湾奥部においては目標レベルに到達しておらず堺臨海部でも同様の状況にあります**。一方、全窒素、全リン量の推移についてみると、IV類型海域に分類される堺臨海部では平成3年以降減少傾向にあります。市民ニーズにおいては、**水質が良く海水浴や海の生物との触れ合いが可能な場所を望む等**の声が上がっています。以上より、当地区においては「**水質環境の改善**」が必要です。



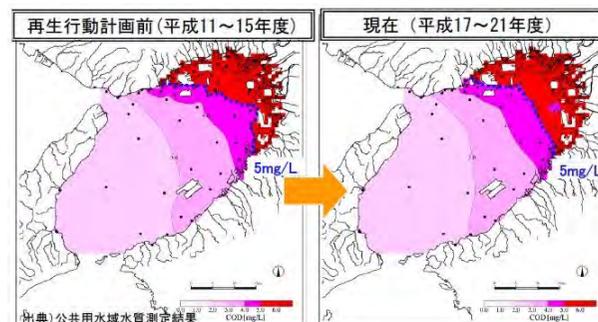
出典: 上記全て大阪湾再生行動計画 平成16年度から平成21年度までの活動報告とりまとめ

図 大阪湾の全窒素、全リンの推移



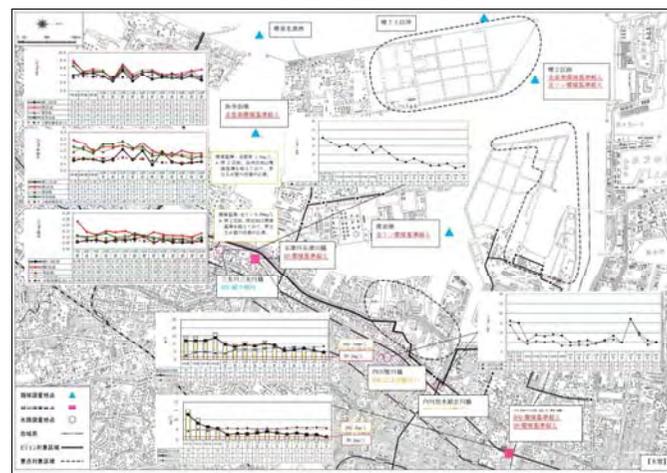
出典: 大阪湾再生行動計画 平成16年度から平成21年度までの活動報告とりまとめ

図 大阪湾の底層D0の分布



出典: 大阪湾再生行動計画 平成16年度から平成21年度までの活動報告とりまとめ

図 大阪湾の表層CODの分布



出典: 大阪湾再生行動計画 平成16年度から平成21年度までの活動報告とりまとめ

図 水質に関する分析図